

# わが風土記

植田正治

「高志の都都の三埼を、国の余りありやと見れば、  
国の余りあり」と詔りたまひて、  
童女の胸鋤取らして、大魚のきだ衝き別けて、  
はたすすき穂振り別けて、三身の鯛うち掛けて、  
霜黒葛くるやくるやに、河船のもそろもそろに、  
国来国来と引き来縫へる国は、三穂の埼なり。  
持ら引ける鯛は、夜見の嶋なり。  
堅め立てし加志は、伯耆の国なる火神岳、是なり。



雛人形の季節

山陰の風と光

二〇〇七年一月二十七日(土)

四月二十二日(日)

SHOJI UEDA MUSEUM OF PHOTOGRAPHY